

# どうじん

第 2 号

発行日 昭和54年10月10日

編集発行

北海道腎臓病患者連絡協議会

札幌市豊平区水車町1-6

TEL (011)823-3330

印刷所

北海道さかんし共同印刷所



(道腎協第2回定期総会より)

北海道腎臓病患者連絡協議会

# 第七回定期総会開かる

## 全道から7ブロック45名が参加

去る六月一七日、札幌市北区民センター講堂において、第二回道腎協定期総会が開催されました。道内七ブロックからの代表四五名と、

「北海道腎移植をすすめる会」の平野先生（北海道大学）、道難病相談員の清水先生、北海道難病連の伊藤事務局長の三氏をお迎えして、おことば及び講演をたまわりました。

昭和五三年度の活動報告、各ブロックの活動報告の後、昭和五四年度活動方針案を採択し、審議を終えました。昼食後、伊藤難病連事務局

長及び「北海道腎移植をすすめる会」の平野先生から講演があり、その後、「装着型人工腎臓 JAK-2」についての映画上映がありました。

今回は、帯広ブロックからの参加がなく、また、事務局、開催地である札幌ブロックの連絡の不徹底から参加者も少なく、もう一つ精彩のない総会でしたが、今後の社会状況等をかんがみた時に、これからの運動展開にとつてとても大事な時期にさしかかった時であるだけにとつても残念に思います。

## 地道な活動こそが最大の活動

——第二回定期総会報告にかえて——

道腎協会長 細川哲男

道腎協は発足後一年半を経過し、発足当時は

い状態で発足しました。

患者の実態、透析者数、病院施設数すら分らない

この一年間で全道の主要な施設数などの実態

も把握し、今まで未加入の地区（旭川、小樽）も道腎協に加入することになり、大体全道を網羅する事が出来ました。

資金的にも、活動家についても非常に困難な状態であるが、各ブロックを中心に活動を進めて来ました。その活動自体も、決して満足できるものかどうか異論もあることと思いますが、私はそれなりの活動をこの一年間実施をして来たと思います。

道腎協は、各ブロックを中心とした集合体である以上、各ブロックがそれぞれの環境に応じた中で努力を重ね、それを全体の中に反映させて行く……という活動だと思えます。

今後の透析患者のおかれている状況は、決して今までのように平穏な状態は続かないと思います。今までは、かえって恵まれ過ぎていたと思います。これは他の難病患者と比較すると、その点が明確に差が出ていると思います。今後、この恵まれた状態が続くとは限らない、むしろ、透析自体は安定した状態で実施され、各人がそれなりに認識していると思えますが、現在のオイルショックの影響は相当広範囲にわたって今年の一月ごろから出ていて、透析に使用しているダイアライザー、その他の材料につい

てもかなりきびしい受給見通しが出ています。

これらの事は、現在一回で使い捨てしているダイアライザーの再使用という問題が起きてるものと思われま。

これらの問題が一度に出て来た場合には、道腎協なり全腎協が一体となり、一丸になって対処していかなければならない時期が来ますので、現在は小さな組織かもしれないが、現在の活動を地道に継続させ、気長に続けていかなければ

## 来賓 あいさつ

# 医療福祉の切捨て許さない運動

道難病連事務局長 伊藤建雄

腎臓の患者さんには道難病連というより、各地域での活動の中心となって運動に加わっていただいていることについて、深く感謝しております。

通院交通費問題について、知事査定ではねられた様ですが、まだ二〇・二一日（六月）くらいまでは復活交渉をやってみます。

この通院交通費問題については、全道労協でも積極的に取り組みたいという協力的体勢もあり、

ならないと思えます。

今まで各ブロックの中では「道腎協とは何をやっているのだろうか」「ただ会費だけを取っているのではないか」と思っている人がおられることと思いますが、これらについては謙虚に反省いたしますが、各地区でそれぞれの活動をしていくことが、一番大事な事ではないかと思えます。

一八日には難病連でこの問題について話し合いをし、一九・二〇日（六月）に場合によっては座り込みをしてでも、ある一定の線を出したいという体勢をとっています。

皆さんの要望する額にはならないかと思いますが、何かひとつくらいは取ってくることを期待しており、腎臓の患者さんも労働組合まかせにしないで協力的体制を取っていただきたいと思えます。

道腎協で実施した実態調査は、各患者会が自分たちの力で実態調査をして、世論に訴えていくということを期待したいと思います。

就業問題について、腎臓病患者が現在大きな問題となっています。室蘭地区では、透析時間を「残業」と「日曜出勤」で補うという約束で、会社を「クビ」にならないですんでいるという事です。

一度「職」を離れると二度と職場にもどれない状況です。

道庁のある要職の人の話では「四〇才を過ぎると健康人でも給料が七万―一二万しか保障されず、求人の方が少ないので当然、障害者や患者には難しく、二度と社会復帰することが出来ない」という非常に深刻な状態になっていることを公然とっております。

医療費の切上げで一番問題にされているのは「人工透析医療」であり、それらの次には必ず他の障害や病気に出て来ます。

この状態が出る前に、今から私たちの力を着々と延ばし、国民の声として、「医療の切捨て」や「福祉の切捨て」を許さない運動のため、透析患者が先頭に立ち、他の多くの患者と共に運動を展開しましょう。

# 「血液透析」と「腎移植」は「車の両輪

北海道腎植を…… 平野先生（北大）

この一年、私たちもいろいろなことがあり、北大泌尿器科だけで一〇人の「腎移植」をし、社会復帰をさせたわけですが、逆に、私たちの力が致らなくて亡くなられた方もあります。く

わしい事は後ほどの講演でお話ししたいと思ひます。

今の慢性腎炎患者の治療法になっている「血液透析」と「腎移植」は切っても切れない「車の両輪」のようなもので、その中で、私たちは

どうやったら良いか、どのように考えているか、どういう状況にあるのかということをお話ししたいと思ひます。

私たちは、立場は「医者」ですし、「進める会」というのは医者の組織なので、いろいろなことがあると思ひますが、「道腎協」を窓口として、アンケート活動の成果を生かしながら活動していききたいと思ひます。

## すみずみの意見が「ひとつの人格に」

…………… 清水先生

第二回の総会で八ブロック、そして旭川・小樽の新しい組織が加わったことは、根強い組織の型成や人格が出来、大変うれいことこのひとつではないかと思ひます。

とにかく、北海道の「すみずみ」の意見が、「ひ

ひとつの人格」としてまとまるには、やはり組織でなければなりません。そういう意味で第一点はおよろこび申し上げます。

次に、人工透析を受けている方々への専門サ一ビスとして、日本の組織に現在の「日本医療師会

事業協会」というひとつの医療ソーシャルワーカーの協会があり、その中に、さらに人工透析のグループで、日本的な組織をつくるということであり、今年の段階では準備委員会が名古屋を中心にして出来ませう。

文化的な中で皆さんのサービスに勉強をし、たたえられる日も将来に期待していただきたいと思ひます。

最後に、皆さんの要望にこたえられるように努力している点をあげてみると、

ひとつには、飛行機での国内旅行の場合での外部障害者との較差解消、そして、腎移植に対する社会への啓蒙運動などを進めなければならぬと思ひます。



# 昭和53年度活動報告

第二回定期総会を迎え、道内八ブロックの組織も確立し、更に小樽地区も札幌ブロックとして入会し、旭川からも入会希望の声が入りつつあります。

実態調査の結果も、全患者数の約半数である五八七名からの回答があり、道内の透析患者の実態をはじめ把握することが出来、今後の活動資料となります。

また、患者の通院交通費助成の要求は、道議会議員の伊藤武一氏（釧路）小堀氏（北見紋別）両議員の強いご支援を得て、道議会の採択を得ることが出来、民生部の予算に組み込まれましたが、知事査定ではなられ、もう一步のところまでこぎつけたのですが、残念でなりませんでした。

その後も民生部に働きかけ、全道労協からも強力に後押しするとの約束をいただき、民生部も次の議会には上程するとの前向きの姿勢で取り組んでいるのが現況です。

又、市町村でも各個に通院交通費の助成を

施、計画しているところもあります。調査がまとまりましたら、表にして配布いたします。(留)

53

4・1 患者と家族の全国集会参加（東京）

3 道腎協から宮嶋真理子さんが出席

3 事務局ニュース ㊞1発行

15 難病連第6回総会出席

16 第2回幹事会開催

17 北見ブロック 石田医院入会

20 事務局ニュース ㊞2発行

22 全腎協 ㊞28発送

26 全腎協 ㊞29発送

30 室蘭腎友会総会 阿部事務局長出席

5・14

全腎協第8回定期総会出席

室蘭より堀口副会長出席

21 運営委員会開催

26 事務局ニュース ㊞3発行

6・18 第1回定期総会開催

25 難病連合同レク参加

7・10 道内透析施設、患者数の調査

全腎協 ㊞30発行

15 難病連第37回理事会出席

22 事務局担当者会議（東京）

23 留白出席

8・14 署名活動開始

9・7 全腎協 ㊞31発送

10 運営委員会開催

19 道庁保健予防課長とセンター建設について談合、留白出席

19 事務局ニュース ㊞4発行

10・24 道内透析患者の生活実態調査実施（現在・集約中）

11・11 道難病連第40回理事会出席

11 全腎協 ㊞32発送

13 事務局ニュース ㊞5発行

14 全腎協幹事会出席（阿部）

16 トランスプラント 配本

24 交通費の調査実施

25 第3回幹事会開催

12・20 道難病連第41回理事会出席

54  
・  
1  
・  
6  
30  
募金の集計、署名用紙送付

17 道議会にて通院交通費助成の請

願、採択となる

22 小笠原貞子議員事務所訪問

23 対馬孝但議員事務所訪問

24 事務局ニュース ㊞6発行

30 国会請願に参加

札幌ブロック(福士)北見プロ

ロック(井上)が参加

2 札幌ブロック 渡井医院入会

3 全腎協 ㊞34発送

17 難病連第44回理事会出席

18 運営委員会開催

30 全腎協幹事会に出席(阿部)

30 事務局ニュース ㊞7発行

# 各ブロック活動報告

## 昭和53年度収支決算報告書

53年4月1日～54年3月31日

収入の部 1,281,771円

前年度繰越金	436,530円
会費	375,350円
補助金 難病連より	140,000円
寄附金 募金	329,891円

支出の部 867,201円

加盟分担金	50,000円 難病連 全腎協 335,700円	385,700円
会議費		320,855円
実態調査費		88,948円
機関誌費		12,418円
資料費		18,778円
通信費		14,241円
印刷費		13,917円
事務用品費		7,854円
事務局交通費		2,340円
雑費		2,150円

❖ 次年度繰越金 414,570円

### 函館ブロック

道南腎協は昭和52年9月18日に設立し、現在患者数が約一二〇名となっています。

透析施設は公立3、民間3の6施設があります。

道南腎協独自でアンケート調査を実施しましたが、その結果では、やはり一番の問題は「社会復帰」ということがあげられました。9月には座談会、年金相談会も開きました。

昭和54年4月22日には、道南腎協の総会を開催

### 札幌ブロック

し、札幌の渡井先生を招き、講演会を開催いたしております。  
また、機関紙「のびる」の発行も10/22号まで発行し、特集号も今年6月に発行することが出来ました。

5月27日、総会を開き、役員改選を行い、会

長 阿部 隆、事務局長 福士が担当すること

になりました。

次に、初年度の腎友会活動に協力していただき「渡井医院」の患者、31名が再度入会することになりました。

その他、春、秋のソフトボール大会。5月27日の総会は、レクリエーションを兼ねて、樽前ハイランドにて開催いたしました。

## 『室蘭ブロック』

54年は、昨年引続き非常にさびしい社会状況にさしかかっているものと考えています。

この不安定な社会状況下において、我々はいかに安定した透析を行っていくか、また、雇用の不安がさげばれている中、この雇用の安定にはどうしたら良いか。ある会社では従業員4000名のところ、8月15日までに200名の首切りが実施されようとしており、この対象者に身障者が入っております。

次に、上部組織対策についてですが、道腎協については、今年度の道腎協体制も確立されましたので、地域活動について具体的方針が示されると思います。室蘭地方腎友会は、地域ブロック代表でもあるが、実際は単一組織であって道腎協に協力しやすい面を生かすと共に、社会

復帰などの基本線を中心活動に反映させたいと思います。

全腎協には道腎協を通じて活動をしますが、全て自主性を失わずに活動して行きたい。

道難病連については、54年度には地方組織（室蘭地区連）も確立されると思うが、難病となると範囲も広くなるため、反面には非常に負担も大きくなると思うので、そこで腎友会の基本に適合した活動には協力して行きたい。まだ積極的に協力できる段階ではないと判断している。

また、地域活動については、53年度には登別市に窓口をもって地域活動に取組みたいと思います。登別市議に腎友会顧問の就任を要請し、直接議会への働きかけをお願いし、会助成問題、その他通院交通費問題、救急対策等について要請などを行いたい。

その他、今後伊達市とも窓口をもちたいと考えております。

次に透析施設と夜間透析については、54年度に「日鉱病院」が透析施設をもつ予定で、将来10床くらいのベッド数になるという情報が入っています。

それから、自己管理、社会復帰についてです

が、これは室蘭は全国でもワースト3に入るくらいの不況の街であり、今後安定した社会復帰をするためには、我々にとって非常に大きな問題になっております。

その他、地域腎友会との交流、疾病に関する医学的知識の向上、身体障害者福祉法の調査研究、地方腎友会体制の研究、幹事会・委員会報告の検討などに取組んでおります。

## 『苫小牧ブロック』

苫小牧は特別なことをやるということではなく、会の目的が患者の親睦をはかるのが主目的であり、組織率は100%で、レクリエーションを年2回行っており、全腎協などの署名運動などには皆さん良く協力してくれます。

交通費助成については、現在助成をしていない市町村の議会の議員を通して、市町村段階の交通費助成をしてくれないか、という要請を2、3の市町村に交渉しており、その結果によって他の市町村に交渉しようと思っております。

## 『留萌ブロック』

53年9月に留萌市に対して、ベッド数増（現在8床）の要望を提出し、結果として夜間の透

析（午後2時ごろ開始）を実施させることが出来る来ました。

54年に入って総会を行い、役員改選で前会長の伊藤氏にvari、新会長に平田さんがなり、副会長に伊藤さんが就任しました。

54年の事業案では、8月25・26日に研修会という名目で十勝岳温泉に1泊2日で行く予定です。これには留萌市の協力を得てバス1用意されることになっております。

総会は6月9日に行ったので、来年度からも道腎協総会の前に開催するという事にしました。

また、患者側の要望事項として、病院での医師の回診がないし、患者も不安なので週一回でも良いので医師の回診をお願いする。

消毒面についても他の病院と比較すると、非常に劣ると思われるので改善してもらおうよう、役員と病院側との話し合いをもちながら要望してきました。

## 『釧路ブロック』

1日に新年会を行い、3月18日には総会を開催いたしました。

6月3日にはレクリエーションとして「山菜取

り」を釧路市の福祉バスを利用して実施しました。

6月10日には腎バンクの提供がありました。これは、釧路港ライオンズクラブの10周年を記念して、ライオンズ会員103名の登録をし、名簿が提出されたものです。

釧路の機関紙「釧路会ニュース」は49号まで発行し、各地区にも送付しております。今年はこの釧路会ニュースに患者さん方の「口体験」を発表してもらおう予定です。

道東3地区（釧路・帯広・北見）のレクリエーションを9月1・2日に、川湯において実施する予定であり、昨年以上の盛り上りを期待しております。

難病連関係では、5月6日に釧路地区連が発表されました。

また、6月24日には厚岸町において釧路地区連主催の「患者・家族集会」が開かれ、300名程度の出席が見込まれています。

現在、釧路の透析病院は公立病院のみですが、7月2日から開業医では初めての透析施設を持った病院が開設され、ベット数も10床となることになっております。

通院交通費について、白糠町では特定疾患患

者に対して交通費の半額を補助するということが、6月21日の議会で本決りとなる予定であり、今年度の予算が20万円という不足気味な予算ですが、一つの足がかりとなるものと思えます。

## 『帯広ブロック』

53年度は、音更町千畳敷公園にて花見会、豊頃町長節湖にてサマービクニック、帯広市グラウンドにてソフトボール大会などのレクリエーションを実施し、会員相互の親睦を深めました。また、会員も正会員、準会員合わせて53名になりました。

54年度には、各種のレクリエーションをはじめとして、会報の発行、道腎協、道難病連との連携を強め、積極的な協力体勢をとりたいと考えております。





# 昭和54年度予算(案)

## 収入の部

1,624,500円

前年度繰越金	414,500円
会費(一ヶ月 道腎 50円×462名)	277,200円
(一ヶ月 全腎100円×319名)	382,800円
他方面からの助成金	200,000円
その他(募金、寄付金)	350,000円

## 支出の部

1,624,500円

全腎協への会費 319人×1,200円	382,800円
総会経費	150,000円
加盟負担金(難病連へ)	50,000円
幹事会、運営委員会他会議費	40,000円
通信、事務用品費	150,000円
機関誌	120,000円
実態調査集計誌費	300,000円
その他雑費	71,700円

昭和 54 年度 役員 名簿

会 長	細 川 哲 男	( 札 幌	北クリニック)
副 会 長	広 岡 達 夫	( 苫小牧	千秋医院)
"	堀 口 功	( 室 蘭	沢山クリニック)
事務局長	留 目 英 生	( 札 幌	北クリニック)
次長	福 士 博 明	( " "	)
運営委員	阿 部 隆	( 札 幌	いの毛医院)
	鈴 木 啓 三	( " "	北クリニック)
	宮 嶋 真 理 子	( " "	中野医院)
	岩 崎 薫	( " "	渡井医院)
	菊 地 憲 二	( 室 蘭	新 日 鉄)
	渡 辺 俊 雄	( 苫小牧	千秋医院)
会計監査	大 西 政 弘	( 札 幌	田島クリニック)
	村 本 徳 雄	( " "	北クリニック)

幹 事(各ブロックより 2 名)

札 幌	阿 部 栄(田島クリニック)	武 田 誠 剛(戸沢医院)
函 館	釣 卷 卓 郎(中野谷泌)	中 野 龍 一(渡辺泌)
室 蘭	土 江 太 郎(新日鉄)	石 井 俊 光(沢山クリニック)
留 萌	平 田 好 作(留萌市立)	伊 藤 正 衛(留萌市立)
北 見	竹 田 昂(石田医院)	(道立北見)
釧 路	上 田 弘(林田クリニック)	早 坂 要(林田クリニック)
帯 広	梅 津 政 一(帯広クリニック)	重 堂 忠 美(帯広クリニック)
苫小牧	五十嵐 与三郎(千秋医院)	池 田 錠 治(市立病院)

全腎協への道代表幹事は

苫小牧ブロックより 広 岡 達 夫 氏

## 各ブロック連絡名簿

ブロック名	代表者名	郵便番号	住所	電話
苫小牧	広岡 達夫		苫小牧市	
			会 員 数	42人
			会報必要部数	49部
函 館	石原 光朗		会 員 数	70人
			会報必要部数	114部
室 蘭	堀口 功		会 員 数	60人
			会報必要部数	65部
留 萌	平田 好作		人工透析室内	
			会 員 数	19人
			会報必要部数	20部
北 見	竹田 昂		会 員 数	35人
			会報必要部数	38部
釧 路	上田 弘		会 員 数	40人
			会報必要部数	48部
帯 広	梅津 政一 帯広腎友会		会 員 数	43人
			会報必要部数	10部
小 樽	津田 嘉郎		会 員 数	13人
			会報必要部数	12部
札 幌	福士 博明		北海道難病連内	
道腎協	留目 英生		札幌市豊平区	

30部分  
(1,500円不足分)

## 編集後記

昭和54年度も半ばを過ぎて、ようやく「どう  
ろじん」2号の発刊が出来た。総会報告に終始  
した不出来としか言い様のない代物ではあるが、  
何とか2号が発刊出来たという事実に着目して  
いただきたい。今後の活動の礎石とならん  
ことを……………。

(ひ)

## 祝電紹介

全腎協様

「第二回定期総会の開催およろこび致します。  
地域における腎疾患総合対策の確立を目差し、  
共にがんばりましょう。」

